

施設名：大阪府立中河内救命救急センター	指定管理者：地方独立行政法人市立東大阪医療センター	指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課：健康医療部 保健医療室 医療対策課
---------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価				評価 S～C	施設所管課の評価	評価 S～C	評価委員会の 指摘・提言																						
		R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）																										
I 平等利用が確保されるよう適切な管理運営を行うための方策	(1)センターの設置目的及び管理運営方針	<p>①施設の設置目的に沿った運営が行われているか</p> <p>【主な指標】</p> <p>病床30床のフル稼働の継続</p> <table border="1"> <tr> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>30床</td> <td>30床</td> <td>30床</td> </tr> </table>	R2（実績）	R3（実績）	R4（目標）	30床	30床	30床	<p>管理運営方針のとおり、24時間365日救急医療体制を確保した。また、府内全域からの救急患者搬送依頼に対応するとともに、圏域の救急医療体制の要として、多数の患者に救急医療を提供した。</p>				B	<p>●コロナ重症患者の受入のため、一般救急患者の受入可能数が減少する中で、多くの患者を受け入れていることは評価できるが、前年度と比較すると減少した。また、他の項目についても前年度と比較し減少しているものが多かった。</p> <p>●引き続き、東大阪医療センターとの連携を深め、より多くの救急患者を受け入れられるように努めていただきたい。</p>	B	<p>●施設所管課の評価は妥当である。</p> <p>●救急患者受診数について、コロナ重症患者の減少が見込まれる状況を考慮した目標設定を行う余地があったのではないかと。</p>															
	R2（実績）	R3（実績）	R4（目標）																												
	30床	30床	30床																												
<p>②管理運営方針に沿った管理が行われているか</p> <p>【主な指標】</p> <p>救急受診患者数</p> <table border="1"> <tr> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>1,139人</td> <td>1,003人</td> <td>1,100人以上</td> </tr> </table> <p>【参考】管理運営方針（事業計画書） 府立中河内救命救急センターは、救急患者に対し救命医療を提供し、府民の生命及び健康の保持に資することを目的に設置されています。この設置目的を達成するため、地方独立行政法人市立東大阪医療センターは、施設の効率的・効果的な管理運営を行いながら24時間365日の救急医療体制を確保することに加え、救命率向上のため職員のスキルアップを図るとともに、関係機関との協力体制の確立や災害医療体制の整備などに積極的に取り組むこととし、これらの取組みを管理運営の基本方針とします。</p>	R2（実績）	R3（実績）	R4（目標）	1,139人	1,003人	1,100人以上	<p>管理運営方針のとおり、24時間365日救急医療体制を確保した。また、府内全域からの救急患者搬送依頼に対応するとともに、圏域の救急医療体制の要として、多数の患者に救急医療を提供した。</p> <p>新型コロナウイルスへの対応として、大阪府の病床確保計画に基づき重症病床を運用し、新型コロナウイルス重症患者の受け入れを行った。</p> <table border="1"> <tr> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>1,139人</td> <td>1,003人</td> <td>939人</td> <td>1,100人以上</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>R3コロナ患者</th> <th>R4コロナ患者</th> </tr> <tr> <td>174人</td> <td>58人</td> </tr> </table>	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）	1,139人	1,003人	939人	1,100人以上	R3コロナ患者	R4コロナ患者	174人	58人												
R2（実績）	R3（実績）	R4（目標）																													
1,139人	1,003人	1,100人以上																													
R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）																												
1,139人	1,003人	939人	1,100人以上																												
R3コロナ患者	R4コロナ患者																														
174人	58人																														
<p>③市立東大阪医療センターとの連携強化に取り組んでいるか</p> <p>【主な指標】</p> <p>医療・連携部会の毎月開催</p> <p>東大阪医療センターへ転院した入院患者数</p> <p>東大阪医療センターから受け入れた入院患者数</p> <p>東大阪医療センターからの手術等応援件数</p>	<p>市立東大阪医療センターとの間で医療・連携部会（毎月第4月曜日）を開催し、双方の医療資源の積極的な活用など一体的な管理運営のメリットを活かした医療連携の体制構築に努めた。</p> <p>新型コロナウイルスへの対応として、市立東大阪医療センターは主に中等症患者、中河内救命救急センターは重症患者の病床運用をおこない、病状に応じて相互に転院を実施するなど、それぞれの医療機能を活かした運用に努めた。</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>東大阪医療センターへ転院した入院患者数</td> <td>66人</td> <td>74人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>東大阪医療センターから受け入れた入院患者数</td> <td>59人</td> <td>57人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>東大阪医療センターからの手術等応援件数</td> <td>27件</td> <td>24件</td> <td>22件</td> </tr> </table> <p>※R2年4月～新型コロナ患者受入</p>	指標	R2	R3	R4	東大阪医療センターへ転院した入院患者数	66人	74人	25人	東大阪医療センターから受け入れた入院患者数	59人	57人	11人	東大阪医療センターからの手術等応援件数	27件	24件	22件														
指標	R2	R3	R4																												
東大阪医療センターへ転院した入院患者数	66人	74人	25人																												
東大阪医療センターから受け入れた入院患者数	59人	57人	11人																												
東大阪医療センターからの手術等応援件数	27件	24件	22件																												
(2)すべての重篤な救急患者の受入れ体制	<p>①重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者を24時間受け入れることのできる体制になっているか</p> <p>【主な指標】</p> <p>重篤患者の受入数</p> <p>中河内圏域における重篤患者の受入割合</p> <p>市立東大阪医療センターへの患者転院割合</p> <p>応需率</p>	<p>中河内圏域における唯一の救命救急センターとして、重篤な救急患者の受け入れに努めた。常時受け入れ体制を確保するため、近隣の医療機関への転院を促進することで効率的な病床運用を行ったことに加え、市立東大阪医療センターとの医療連携（医師や医療技術者の相互応援等）により、新型コロナウイルス患者および複数の診療科にわたる患者の受け入れに努めた。</p> <p>また、大阪府救急患者受入コーディネート事業に協力機関として参画し、搬送困難事案に対し、積極的に患者を受け入れた。</p> <p>コロナ以前の搬送依頼数（年1100件程度）を大きく超える依頼があったため、応需率は前年度より向上するも、低値とならざるを得なかった。なお、不応需となった案件を翌日のカンファレンスで共有するなど、可能な限り応需率の向上に努めた。</p> <p>新型コロナウイルスへの対応として、フェーズに応じて2床～8床の重症患者受け入れ体制を確保した。</p> <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>重篤患者受入実績※1</td> <td>877人</td> <td>817人</td> <td>788人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中河内圏域における重篤患者の受入割合※2</td> <td>13.8%</td> <td>14.9%</td> <td>15.9%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市立東大阪医療センターへの患者転院割合</td> <td>17.8%</td> <td>20.3%</td> <td>9.5%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>応需率※3</td> <td>71.0%</td> <td>42.3%</td> <td>50.4%</td> <td>85.0%</td> </tr> </table> <p>※1 「来院時の年間重篤患者数」から抽出 ※2 重篤患者：「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」上で緊急度の高い赤1・赤2・CPA（心肺停止）の患者（ORIONデータ） ※3 総依頼件数：1,289件（R2）、2,086件（R3）、1,791件（R4）</p>	指標	R2	R3	R4	R4（目標）	重篤患者受入実績※1	877人	817人	788人	-	中河内圏域における重篤患者の受入割合※2	13.8%	14.9%	15.9%	-	市立東大阪医療センターへの患者転院割合	17.8%	20.3%	9.5%	-	応需率※3	71.0%	42.3%	50.4%	85.0%	B	<p>●応需率について、前年度を上回っているが、三次救急医療機関として求められる水準には達していない。更なる改善に努められたい。</p>	B	<p>●施設所管課の評価は妥当である。</p> <p>●コロナ禍という特殊な状況を踏まえると、応需率50.4%というのは妥当と思われる。</p>
指標	R2	R3	R4	R4（目標）																											
重篤患者受入実績※1	877人	817人	788人	-																											
中河内圏域における重篤患者の受入割合※2	13.8%	14.9%	15.9%	-																											
市立東大阪医療センターへの患者転院割合	17.8%	20.3%	9.5%	-																											
応需率※3	71.0%	42.3%	50.4%	85.0%																											

施設名：大阪府立中河内救命救急センター	指定管理者：地方独立行政法人市立東大阪医療センター	指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課：健康医療部 保健医療室 医療対策課
---------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言															
			S～C		S～C																
II センターの効用を最大限発揮するための方策	(3) 中河内二次医療圏におけるメディカルコントロール体制の中心的役割を担っているか 【主な指標】 所長の中河内メディカルコントロール協議会会長就任 毎月実施される検証会議への出席	中河内救命救急センター所長代行が中河内地域メディカルコントロール協議会会長を務め、毎月の検証会議に専門医を派遣するなどメディカルコントロール体制の充実強化を図るべく、消防機関及び医療機関との連携強化に努めた。	A	●新型コロナ対応と並行し、MC協議会や各講習会への講師派遣、救急隊員セミナーを多数開催し、地域のMC体制の中心的役割を果たしたと評価出来る。 ●ただし、二次医療機関等からの紹介患者数が前年度を下回っている。	B	●施設所管課の評価は妥当である。 ●紹介患者の受入が出来なかった事案についてもカンファレンスにおいて共有するとよい。															
	②初期・二次救急医療機関との連携を図るとともに、相互の医療の質的向上に取り組んでいるか 【主な指標】 救命処置講習等への講師派遣実績 二次救急医療機関等からの患者紹介数	関係団体と協働してACLS（二次救命処置）やAED講習会を開催し、心肺蘇生法及びこれに関連する医療技術・知識等の普及に努めるとともに、救命率向上のため各団体が主催する救急医療に関する講習会に講師等を派遣した。 また、二次救急医療機関と連携し、救急医療体制の質的向上を図るため、紹介患者の積極的な受け入れに努めた。					<table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>二次医療機関等からの紹介患者数</td> <td>195人</td> <td>161人</td> <td>87人</td> </tr> </table>	指標	R2	R3	R4	二次医療機関等からの紹介患者数	195人	161人	87人						
指標	R2	R3	R4																		
二次医療機関等からの紹介患者数	195人	161人	87人																		
	③地域の消防機関との連携がとれているか 【主な指標】 救急隊員セミナー等の毎月開催	救急救命士に対して心肺機能停止状態の患者搬送時における救急救命処置（特定行為）の具体的指示や指導・助言を行うとともに、処置についての事後検証及び再教育を行うほか、救急隊員セミナーを10回開催し、医療行為の質の確保および地域の消防機関との連携強化に努めた。																			
(4) 救命救急医療機能の向上を図るための具体的手法及び期待される効果	④転院先の確保に努めているか（※転院先の円滑な確保等による入院日数の縮減） 【主な指標】 平均在院日数	新型コロナウイルス重症者用病床確保と救命救急医療体制を両立させるため、適切なベッドコントロールを行い、地域医療連携室を中心に円滑な転退院と効率的な病床運用に努めた。	A	●平均在院日数について安定的に短縮されている。 ●新型コロナ対応と並行し、各学会等への参加や臨床医の受入、災害対応人材の養成に取り組んでいる点について評価できる。	A	●施設所管課の評価は妥当である。															
	<table border="1"> <tr> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>6.8日</td> <td>6.2日</td> <td>11日以下</td> </tr> </table>	R2（実績）					R3（実績）	R4（目標）	6.8日	6.2日	11日以下	○平均在院日数	<table border="1"> <tr> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> <tr> <td>6.8日</td> <td>6.2日</td> <td>6.7日</td> <td>11日以下</td> </tr> </table>	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）	6.8日	6.2日	6.7日	11日以下
	R2（実績）	R3（実績）					R4（目標）														
6.8日	6.2日	11日以下																			
R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）																		
6.8日	6.2日	6.7日	11日以下																		
⑤医療従事者の技術向上に努めているか 【主な指標】 学会等への参加状況 臨床研修医の受入状況 職種別の研修実施状況	関係学会への参加・発表および各種団体が主催する研修会・講習会等への積極的な参加を行い、高度医療技術の習得および職員の資質向上に努めた。 また、看護師に対し各段階別に院内にて定例研修を実施すると共に看護協会が主催する院外研修に積極的に参加し、キャリア開発およびスキルアップに努めた。 指定管理運営のメリットを活かし、市立東大阪医療センターと共通のe-ラーニング等を活用することで職種やレベルに応じた様々な研修が受講できる環境を整備した。 初期臨床研修における救急分野の協力型臨床研修病院として、市立東大阪医療センターをはじめとする関連病院から多数の研修医を受け入れた。																				
⑥災害発生時に災害拠点病院として中心的役割を果たすことができる体制になっているか 【主な指標】 DMAT隊員の確保 DMAT等訓練への参加状況	災害発生時に迅速に対応すべくDMAT（災害派遣医療チーム）隊員を5チーム（約25名）配置すると共に、国・大阪府等が主催する各種災害対策訓練に参加することで技能の維持向上に努めた。 また、災害時には災害拠点病院として市立東大阪医療センターと合同で対策本部を設置し、情報ネットワーク等を活用して周辺の医療機関との患者転送および支援体制の調整を行うなど、地域の災害医療の中心的な役割を担っており、大阪府が管理する八尾空港SCU（広域医療搬送拠点）の運営を大阪急性期・総合医療センターと分担して担うなど、大阪府の災害医療施策においても貢献した。																				

施設名：大阪府立中河内救命救急センター	指定管理者：地方独立行政法人市立東大阪医療センター	指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課：健康医療部 保健医療室 医療対策課
---------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言																																																				
			S～C		S～C																																																					
(5)センターの維持管理の内容、適格性及び実現の可能性	①施設管理、安全管理は適正か 【主な指標】 施設等の修繕実績 法定点検等の実施状況	施設および設備（昇降機、電気、空調、給排水等）の管理について、予算の範囲内で効率的に整備を行っており、法令に基づいた点検を実施し、安全管理に努めた。 また、センター開設後20年以上経過し、施設・設備等の耐用年数が到達することから、大阪府と適切な情報共有に努め、修繕計画に基づき更新または改修工事を行った。	A	●施設設備の適切な管理を行い、安定的に施設運営を行った点は評価できる。 ●光熱費等の物価高騰の中、引き続き経費節減に努められたい。	A	●施設所管課の評価は妥当である。																																																				
	②維持管理は効率的に行われているか 【主な指標】 維持管理経費削減のための具体的な取り組み	平成29年度からESCO事業を開始し、LED照明やマイクロジェネレーション等の省エネ設備を導入した。社会情勢の影響により電気およびガス料金が急激に高騰し、光熱費の上昇が不可避となるものの、節電の啓発等により最小限の上昇に抑えた。																																																								
(6)センターの効率的・効果的な管理運営に係る内容	①収入の確保及び支出の抑制に努めているか 【主な指標】 収入 新入院患者 充床率 入院収益単価 支出 材料費率 給与費比率 委託料 ※充床率： 実際に使用された病床／30床（平均値） ※材料比率： 材料費／医業収益（利用料金収入） ※給与費比率： 給与費／医業収益（利用料金収入）	経費のうち大きな比率を占める材料費の縮減を推進し、配置定数を常に見直し、在庫数および廃棄数の削減に努めるとともに、安価な材料を採用・更新できるように材料・薬剤選定委員会にて選定を行った。 また、SPDを活用することで診療材料の購入費削減を図りつつ、委託料についても個々の契約を見直すことで可能な限り支出の抑制に努めた。 収入確保のための3つの指標のうち、入院収益単価は目標を達成するも、新入院患者数と充床率は目標達成には至らなかった。 支出抑制のための3つの指標のうち、材料費比率は目標を達成するも、給与費比率は僅かに目標に届かなかった。 委託料については医療機器の保守料追加および無線LAN環境整備事業（約2,000万円）により支出増となった。	B	●入院収益単価や材料費率が目標値を達成していることは評価できるが、前年度の実績を上回っていない。	B	●施設所管課の評価は妥当である。 ●医療機関であるため、支出削減を迫り過ぎるべきではないが、更なる削減のために、共同購入などを検討してもよい。																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>項目</th> <th>R2（実績）</th> <th>R3（実績）</th> <th>R4（実績）</th> <th>R4（目標）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">収入</td> <td>新入院患者</td> <td>792人</td> <td>642人</td> <td>578人</td> <td>810人以上</td> </tr> <tr> <td>充床率</td> <td>57.3%</td> <td>42.1%</td> <td>40.5%</td> <td>80%以上</td> </tr> <tr> <td>入院収益単価</td> <td>190,751円</td> <td>232,061円</td> <td>162,794円</td> <td>110,000円以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">支出</td> <td>材料費比率</td> <td>28.1%</td> <td>24.6%</td> <td>29.4%</td> <td>33%以下</td> </tr> <tr> <td>給与費比率</td> <td>79.8%</td> <td>92.9%</td> <td>113.7%</td> <td>112.3%以下</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>205,011千円</td> <td>216,851千円</td> <td>241,866千円</td> <td>191,316千円</td> </tr> </tbody> </table>					分類	項目	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）	収入	新入院患者	792人	642人	578人	810人以上	充床率	57.3%	42.1%	40.5%	80%以上	入院収益単価	190,751円	232,061円	162,794円	110,000円以上	支出	材料費比率	28.1%	24.6%	29.4%	33%以下	給与費比率	79.8%	92.9%	113.7%	112.3%以下	委託料	205,011千円	216,851千円	241,866千円	191,316千円														
分類	項目	R2（実績）	R3（実績）	R4（実績）	R4（目標）																																																					
収入	新入院患者	792人	642人	578人	810人以上																																																					
	充床率	57.3%	42.1%	40.5%	80%以上																																																					
	入院収益単価	190,751円	232,061円	162,794円	110,000円以上																																																					
支出	材料費比率	28.1%	24.6%	29.4%	33%以下																																																					
	給与費比率	79.8%	92.9%	113.7%	112.3%以下																																																					
	委託料	205,011千円	216,851千円	241,866千円	191,316千円																																																					
III 適正な管理運営業務の遂行を踏ることができ	(7)収支計画の内容及び適格性	①事業収支は計画に比して妥当か 【主な指標】 ・総支出：1,919,952千円以下に抑制 ・利用料金収入：1,020,120千円以上の確保 ・収入とバランスの取れた支出抑制	救急医療の最後の砦として医療機能に影響のないよう配慮しつつ、可能な限りのコスト削減に努めるなど収支計画と事業収支の整合性を図った。 総支出は計画比-11.8%（給与費を除いた支出は計画比-1.6%）と指標の数値を達成するも、利用料金収入は計画比-19.8%とマイナスに転じた。	B	●利用料金収入が減少している。患者受入数を上昇させ、収支改善に取り組みたい。	B	●施設所管課の評価は妥当である。																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">（千円）</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総支出</td> <td>実績</td> <td>1,674,711</td> <td>1,803,014</td> <td>1,692,966</td> </tr> <tr> <td>目標値との差額</td> <td>▲230,526</td> <td>▲111,994</td> <td>▲226,986</td> </tr> <tr> <td>利用料金</td> <td>実績</td> <td>1,125,103</td> <td>1,111,051</td> <td>818,314</td> </tr> <tr> <td>収入</td> <td>目標値との差額</td> <td>+82,879</td> <td>+66,424</td> <td>▲201,806</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">（計画値と比した実績額の増減率）</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">支出 （給与費除く）</td> <td>実績額（千円）</td> <td>776,865</td> <td>771,226</td> <td>762,480</td> </tr> <tr> <td>目標値との差</td> <td>▲6.9%</td> <td>▲7.4%</td> <td>▲1.6%</td> </tr> <tr> <td>利用料金</td> <td>実績額（千円）</td> <td>1,125,103</td> <td>1,111,051</td> <td>818,314</td> </tr> <tr> <td>収入</td> <td>目標値との差</td> <td>+8.0%</td> <td>+6.4%</td> <td>▲19.8%</td> </tr> </tbody> </table>						（千円）					R2	R3	R4	総支出	実績	1,674,711	1,803,014	1,692,966	目標値との差額	▲230,526	▲111,994	▲226,986	利用料金	実績	1,125,103	1,111,051	818,314	収入	目標値との差額	+82,879	+66,424	▲201,806			（計画値と比した実績額の増減率）					R2	R3	R4	支出 （給与費除く）	実績額（千円）	776,865	771,226	762,480	目標値との差	▲6.9%	▲7.4%	▲1.6%	利用料金	実績額（千円）	1,125,103	1,111,051	818,314
		（千円）																																																								
		R2	R3	R4																																																						
総支出	実績	1,674,711	1,803,014	1,692,966																																																						
	目標値との差額	▲230,526	▲111,994	▲226,986																																																						
利用料金	実績	1,125,103	1,111,051	818,314																																																						
収入	目標値との差額	+82,879	+66,424	▲201,806																																																						
		（計画値と比した実績額の増減率）																																																								
		R2	R3	R4																																																						
支出 （給与費除く）	実績額（千円）	776,865	771,226	762,480																																																						
	目標値との差	▲6.9%	▲7.4%	▲1.6%																																																						
利用料金	実績額（千円）	1,125,103	1,111,051	818,314																																																						
収入	目標値との差	+8.0%	+6.4%	▲19.8%																																																						

令和4年度 指定管理運営業務評価票

施設名：大阪府立中河内救命救急センター	指定管理者：地方独立行政法人市立東大阪医療センター	指定期間：令和4年4月1日～令和9年3月31日	所管課：健康医療部 保健医療室 医療対策課
---------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言																				
			S～C		S～C																					
能力及び財政基盤に関する事項	(8) 安定的な管理運営が可能となる人的能力	<p>①職員確保の方策は妥当か</p> <p>医師、看護師をはじめとする医療従事者の確保対策として、大学医局に医師の派遣を依頼するとともに、職員個々の人脈を通じた勧誘、センターOBへの協力要請、医師および看護師専門の求人サイトや紹介業者の活用を行うとともに、大阪府から最小限の人的支援を受け、高度な医療水準を維持するための体制構築に努めている。 また、ホームページの充実化を図り、ハローワークや各職能団体の就職紹介事業などを活用した求人により職員確保に努めている。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="5">(医師・看護師数推移状況)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>R2 (4/1)</td> <td>R3 (4/1)</td> <td>R4 (4/1)</td> <td>R4 (3/31)</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>74</td> <td>85</td> <td>80</td> <td>71[※]</td> </tr> </table> <p>※年度末退職者8名</p> <p>②職員の労働環境の整備に努めているか</p> <p>所長代行以下、医務・看護・事務の3部門が密接に連携を図れるよう重要な企画調整・案件について、各部署の責任者で構成する運営委員会で決定を行っている。 また、法人（センター）内 で意思決定を行えるよう下記のとおり各種委員会を設置している。 【法定委員会】 安全衛生委員会、医療安全管理委員会、感染対策委員会、輸血療法委員会、栄養管理委員会、医療ガス委員会 【その他委員会】 診療調整委員会、災害対策・DMAT委員会、材料・薬剤選定委員会ほか各種委員会</p> <p>各現場の控室等に空気清浄機やアクリル板を設置するとともに、新型コロナウイルス等各感染レベルに応じた個人防護具の適正な使用を推進することで業務中の感染予防対策に注力し、安全かつ快適な労働環境の整備に努めている。 また、女性の活躍を推進するための各種制度（育児短時間勤務制度、子の看護休暇制度等）の啓発に努め、市立東大阪医療センターにおける病児保育（小児科にて一時的に病児を入院させること）を中河内救命救急センターの職員が利用することにより、女性職員が安心して勤務できる体制確保に努めている。</p>	(医師・看護師数推移状況)						R2 (4/1)	R3 (4/1)	R4 (4/1)	R4 (3/31)	医師	11	11	8	8	看護師	74	85	80	71 [※]	A	<p>●医師確保について課題がある。安定的な運営が可能となるよう職員確保に努められたい。 ●各種委員会や新型コロナ対策、育児関係の制度運用に努めている点は評価できる。</p>	B	●施設所管課の評価は妥当である。
	(医師・看護師数推移状況)																									
		R2 (4/1)	R3 (4/1)	R4 (4/1)	R4 (3/31)																					
医師	11	11	8	8																						
看護師	74	85	80	71 [※]																						
(9) 安定的な管理運営が可能となる財政的基盤	①法人の経営状況及び業務運営体制は安定的であるか	<p>平成28年10月に策定した法人の第1期中期計画に引き続き、令和3年4月に策定した第2期中期計画において救急医療体制の充実及び中河内救命救急センターとの連携強化を記載しており、目標達成に向けて、第三者による独立した評価委員会を設置するなど、法人として目標の達成状況を管理している。 また、中期計画の重点項目として、第1期中期計画期間に整備した経営基盤を土台に、更なる効率的な病院運営を行い、長期的に安定した経営基盤確立を目指しており、中河内救命救急センターを安定的かつ一体的に運営するための財政的基盤及び経営体制の整備に努めている。</p>	A	●法人の第2期中期計画に基づき、引き続き安定的な運営に努められたい。	A	●施設所管課の評価は妥当である。																				
IV その他	(10) 府施策との整合	<p>①府・公益事業協力等</p> <p>大阪府の災害医療体制推進への協力として災害拠点病院の指定を受け、災害時等の医療救護活動に関する協定を締結している。また、近畿地方DMATブロック訓練に参加するなど、国・大阪府の災害医療施策の推進に貢献している。</p> <p>②障がい者等の実雇用率</p> <p>障がい者等の雇用については、適性に応じた配置転換を行うなど継続的雇用の推進に努め、に市立東大阪医療センターと協力し、実雇用率2.68% (R4.6.1) を達成した。</p> <p>③府民・NPO法人との協働</p> <p>大阪ライフサポート協会等が主催するAED講習会へ講師を派遣するなど、NPO法人との協働に努めている。</p> <p>④センターでの環境問題への取組の実施</p> <p>各種リサイクル法に基づく取組みを行うとともに、コピーの両面使用や職員が供出する不用衣服を生活困窮者や独居者等の患者が退院する際に提供するなど資源の再生利用に努めている。</p>	A	●評価基準の各項目について、適切に取り組んでいる。	A	●施設所管課の評価は妥当である。																				

年度評価	B
総合評価 (最終評価)	-